

平成30年9月10日(月)

老球の細道436号

## 審判の葛藤とレベルアップ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

水害、台風、地震と毎日のように日本中どこかで自然災害に見舞われている。と同じく、スポーツ関係の不祥事も毎日色々な種目、協会が話題にあげられている。わがバスケットボール協会も例に漏れない。その中でも特に問題だと思うのは、ボクシングの「奈良判定」、体操の「塚原採点」などの審判の不公正な判定で勝敗が決まった不祥事である。

審判は公正、公平が大前提であるスポーツにおいて、この大原則が崩れてしまうとスポーツの試合は成立しなくなる。審判も人間だから多少のミスはあるかもしれないが、意図的に判定を操作するようなことは絶対にあってはならない。特にバスケットボールの審判は、微妙なコンタクトが多いので、それを審判の笛で不公平、不公正にコントロールされたりしたらバスケットボールは滅びてしまうだろう。

先日、地区の高校一年生大会が審判講習会と一緒に開催されていた。多くの若い人達が公認審判を目指して本気になって勉強していた。会津地区にはS級審判の芳賀聡氏がいる。身近に最高の審判員が存在することは、即審判のレベルアップに繋がる。彼の一挙一動を真似することからスタートすればレベルアップは簡単だろう。

スポーツの審判の中でもバスケットボールの審判は最も難しいと思う。走らなければならない、ルールがたくさんある、選手やコーチからクレームをつけられプレッシャーがかかる、そして判定にグレーな部分(チャージングかプッシングか等)が多くて難しい。ミスジャッジも多い。だから狭いコートの中に3人もの審判が必要とされる。

『コーチングクリニック2018・2月号』においてFIBA名誉国際審判員の木葉一総氏が「良いジャッジをするには」について参考になることを書いている。

**\*試合をたくさん見る**：審判をするチームのシステム、選手の特徴を頭に入れることで、プレイを予測する。個々のプレイヤーの個性を知ること、例えばポジション争いなどでよく腕を使う選手がいれば、ファールは起こりやすいことが事前にわかる。

**\*選手やコーチとコミュニケーションを大事にする**：選手は話を聞いてくれるとうれしいようである。コーチからの激しいアピールにも普段のコミュニケーションで緩和できる。(Bリーグのゲームを見ると、審判へのクレーム、アピールは尋常でない。こういう時こそ審判の冷静なコミュニケーション能力が問われる場面である)

**\*心理的なプレッシャーを克服しなければならない**：試合前に会場を見渡し、自分には敵はいないということを確認する。あとは開き直る。自分を割り当ててくれた人がいる。私の後ろには味方がいると思う。審判に交代はない。ジャッジミスしても「ここからスタートだ」という強い気持ちをもって、責任を全うしていくしかない。

最近では審判員が裁判に訴えられたり、選手にカウンターパンチを浴びせられたりと理不尽な仕打ちをうける時代になった。が、審判がいなければゲームは成立しない。審判のレベルが上がらなければゲームのレベルも上がらない。

プレイヤーも簡単なシュートを落とす、コーチもタイムアウトのタイミングを間違える、審判もミスをする。皆がミスをする、人間だもの。ましてや女(ミス)男(ミスったー)だもの。皆がおおらかな気持ちでバスケットボールを楽しんでほしいと思う。